

造影剤検査を受けられる方への説明書

造影検査とは

今回実施する造影検査は【造影剤】という薬剤の注射をして行います。造影剤を用いることにより、病気の状態をより正確に明らかにし今後の治療に役立てます。CT・MRI検査は造影剤を使用しなくても行えますが正確に診断できずに病気の発見が遅れることや、病変の性状が判断できない場合があります。

造影剤の副作用

造影剤は安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることがあります。以下のような副作用の種類があります。

- 1) 軽い副作用：吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などで、頻度は3～5%以下です。
- 2) 重い副作用：呼吸困難、意識障害、血圧低下などのショック症状が起こることがあります。このような副作用は治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。そのため、入院や手術が必要なこともあります。頻度は1,000人～2,500人に1人の割合とされています。
- 3) 遅発性副作用：まれに検査終了後、数時間から数日後に体がだるくなったり、頭痛がしたり蕁麻疹が出る場合があります。このような副作用の頻度は、1,000人につき1人程度です。
- 4) 非常に稀ですが、病状・体質によっては10万～20万人につき1人の割合で死亡する場合もあります。
- 5) 造影剤成分のアレルギーと造影剤投与で重篤な副作用があった方は禁忌、喘息・腎機能低下・甲状腺機能亢進症の方は原則禁忌です。
- 6) ビグアナイド系糖尿病治療薬を内服している方は、CT造影検査当日と前後2日間、合計5日間の休薬が必要です。
- 7) 副作用の出現は、アレルギー体質の方で3倍、喘息の方で10倍多いとされています。また、CTの造影剤を使うと腎機能が悪化することがあります。

上記副作用の危険性より検査の有用性が上回ると判断される場合のみ実施することになります。当院では万が一、副作用や合併症が起きても適切な処置を行えるよう万全の体制を整えて検査を施行しております。もし検査中に異常だと感じたら、ためらわずに、すぐにお伝えください。

造影剤を注射するときには

- 1) 体が熱くなることがありますが、血管に対する直接の刺激による正常な反応であり心配ありません。
- 2) 勢いよく造影剤を注射するために、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射部位が腫れて痛みを伴うこともあります。基本的には時間がたてば吸収されますので心配いりません。漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要になることもあります。極めて稀です。